



報告書

令和2年2月12日

小牧市議会議員 舟橋秀和様

会派名 無会派

代表者氏名 山田美代子

調査を行いましたので結果を報告します。

記

調査日 令和2年2月3日(月)～2月4日(火)

調査先及び調査項目

静岡県掛川市：まちづくり協議会について

東京都足立区：ギャラクシティについて

参加議員 山田美代子

調査結果は別紙参照

① 訪問日時

令和元2月3日 13:00~15:00

② 訪問先

静岡県 掛川市役所

③ 説明者

生涯学習協働推進課（まちづくり協働センター）協働推進室 協働推進係

主査：鈴木淳也

主査：片山能志晴

④ 調査項目

まちづくり協議会について

⑤ 視察先の選定理由

小牧市において地域協議会の設立が進められており現在 16 小学校中 11 校が立ち上がった。その充実に役立てるため、平成 27 年度より活動をしている掛川市の取り組みを調査することとした。

⑥ 視察項目の概要説明

○今、なぜ協働のまちづくりなのか

少子高齢化、人口減少、地球温暖化、頻発する大災害等、誰も経験したことがない環境や社会の変化に対応可能な仕組みを今から構築しておく必要がある。

○まちづくり協議会設立の経緯

昭和 54 年に全国初「生涯学習都市宣言」を行う。

平成 25 年 4 月 1 日「自治基本条例」施行

平成 27 年 4 月 1 日「協働によるまちづくり推進条例」施行

平成 27 年度に 3 地区をモデルとして立ち上げ翌年度には残り 28 地区が立ち上がる。

○地区まちづくり推進協議会交付金

事業実施計画経費に 10 分の 10 支給

拠点施設整備、修繕等に上限年額 100 万円

事務局の運営経費に上限年額 108 万円

市全体の平成 30 年度の交付金総額は 1 億 2 千万円

○市との関わり方

まちづくり協働センターが設置されており職員6名が31地区の主に事務的なことを担当している。年4回は専門家アドバイザーも入り相談会を実施している。

○今後の課題

立ち上げから4~5年経過し、活動は60~70歳男性が多く人材が不足してきた。若者や女性を増やしたい。

⑦考察

旧掛川市長榛村純一氏が古くから生涯学習の必要性を説いてきた。生涯学習に取り入れた二宮尊徳の教え「報徳」とは、「ないものねだりではなくあるものを活かして、地域の歴史を大切に」である。市政の全ての根幹に「生涯学習」の教えがありそれが広く市民に根付いているのが素晴らしいと感じた。31地区の活動は個性があり多種多様な取り組みは小牧市において参考にしたい。



① 訪問日時

令和元年2月4日 10:00～12:00

② 訪問先

東京都足立区：ギャラクシティ

③ 説明者

地域のちから推進部地域文化課文化施設経理係長：吉野義浩

地域のちから推進部地域文化課文化施設経理係：上田耕平

ギャラクシティ指定管理者みらい創造堂館長：村田憲司

④ 調査項目

ギャラクシティについて

⑤ 視察理由

小牧市において(仮称)こども未来館整備工事が進んでおりその施設に設置予定のネット遊具やデジタルコンテンツなどを実際に見学するため。

⑥ 概要説明

○ギャラクシティとは

こども未来館・まるちたいけんドーム・西新井文化ホールの複合施設の総称の呼び名。

○設立の経緯

1994年3月に総工費138億円かけ科学館としてオープンしたが来客者数が減少、ピーク時の年間33万人から13万人と落ち込んでいた。2013年4月に21億円かけリニューアル、スペースシャトル撤去場所に大型ネット遊具を設置。見学するだけの施設から遊びながら学べる体験型複合施設へとなった。

○施設の設置目的

子どもから大人までが楽しみながら体験、文化活動や鑑賞を行うことを主眼としたコミュニティ施設である。また一般の足立区民の公共施設の役割も担っている。

○施設の運営

指定管理者を5年ごとにプロポーザルで選定していて現在の指定管理会社はみらい創造堂で運営はヤオキン商事（創業100年の自動車販売業）、施設管理は協栄のJVである。

指定管理料は年間5億円。130万円以上の修理は市が持つ。職員は130人で内訳は正規40～50人、臨時・バイト80人。

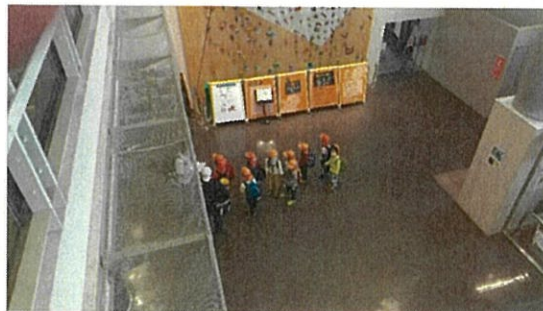
○施設の特徴

ネット遊具やボルタリングは大人も利用できる。デジタルキャンパスは身体を使ってしりとりゲームなどができ、これらは大人気のため土日祝は大変混雑して並んで待たなければならない。ちびっこガーデンは一時保育支援事業もおこなっている子育てサロンである。

年間2200本の多種多様なワークショップやセミナーを開催している。プラネタリウム(170席)は東京23区内最大級である。ピラミッド型のキッチンでは食育イベントも開催している。西新井文化ホールは客席数902席。カフェが別運営で併設。2018年度の来場者数151万人、夏休み中が20万人他の月が10万人。30代40代のファミリーが8割と圧倒的に多い。6大学（東京電機大学・東京未来大学・放送大学・東京芸大・帝京大学・文教大学）、地域企業（足立区工業会連合会・あだち紙ものラボ）と連携してプロジェクトを展開している。

○問題と今後の課題

平日と休日の利用者数の差が大きく、雨の日や休日は駐車場が直ぐに満車になりギャラクシティ周辺の道路が車で溢れる。足立区民の来場者数は約3割であることから区の税金で運営されることへの不満も上がっている。設置後6年経過のネット遊具の点検、補修は随時しているが、安全面を考慮して10年程度で張り替えを検討している。建物の大規模改修の時期を考慮してネットの張り替えと同時にするかも検討している。



⑦ 考察

ギャラクシティは大型施設であるがゆえに維持管理に莫大な費用がかかる。2018年度の来場者数は151万人だが、平日の午前中に見学したため来館者は少なく高齢者の姿も見かけなかった。見た目は豪華で良い印象だったが税金の用途として費用対効果はどうか疑問が残った。本年9月上旬にオープン予定の小牧市（仮）こども未来館内に設置される大型のネット遊具・デジタルコンテンツ・ボルタリング、今は人気がある。

しかし、小牧市（仮称）こども未来館は中央児童館の移設です。児童館にはそれらの遊具は不必要ではないかと考える。箱物のオープン当初は人目をひくがいずれ人気は陰り利用者は減ると予想される。さらに少子高齢化により税収入の減少が見込まれる小牧市において、今後は維持管理費が大きな課題になると考えられる。